

種 名 アカマツ

万葉時代の呼名 一



詠人 作者不明

万葉集卷六一〇四一

わが屋戸の君待つの樹に降る雪の
行きには行かじ待ちにし待たむ

【現代訳】

わが家のあなたを待つ松の木に雪が降り、その雪のように行きましょうか、行きません。あなたを待ちに待ちますとも…

【アカマツの解説】 マツ科マツ属の常緑針葉樹

日本産の松の中でもっとも広い範囲に分布し、目に触れる機会の多い松である。文字通り樹皮が赤いのでこの名が付いている。明るい場所を好む陽樹であり、また乾燥地や、土壌の乏しい溶岩上などに耐えることができる一方、安定した極相林の中では他の樹木に伍して子孫を残すことができない、典型的な先駆植物である。いわゆる里山に於いては、尾根筋に植えられることが多かった。現在の荒廃した里山ではその数を大幅に減らしている。

またアカマツ林は、マツタケの生産林でもある。第二次世界大戦前後までは、日本では家庭における燃料を山林に頼っていたので、アカマツ林の落葉や落枝は重要な燃料となっていた。このことがマツタケの生育環境維持に貢献していたと考えられる。